

本気で心の底から思い 小さい事を積み重ねる。

奮闘努力中

創業50周年を迎える株式会社ハヤブサドットコムは、携帯電話と自動車電装品を取り扱う県内大手。その二代目野田和郎代表取締役は、「先代が築き上げたものをベースに、自分らしく会社を運営し、発展させ次に引き継ぎたい」と語る。

取り扱う商品が、めまぐるしく進化を続ける生活必需品であるが故に、お客様のニーズや期待はほとんど変化する。「従業員個々の能力を高め、会社全体としてサービスのクオリティを上げる必要がある。質の高いハヤブサ

らしいオリジナルなものを発揮できるように、まさに奮闘努力中です」。そして、「上を目指しに行けば、さらに上が見える。自分の憧れとの距離が見えて、まだまだぜんぜんです」と、慢心することはない。

アイデアの種

「中学生の時、成績はトップクラスと自負していたのに、高校に行くのと頭いい奴がいっぱいた」と笑う。また「大学時代にスキのサークルを立ち上げ、二応級レベルだけど、うまい奴はもっとすごい」と。ホーリングもヒリヤード



もゴルフも、その他にも、全てがはたから見ると、かなりすごいと思うことも「そこそこですよ」と偉ぶらないのは、上には上があると謙虚に受け止めているから。

そんな姿勢が、仕事にも反映されていて、現状に満足することがない。より質の高いサービスを提供するためには、常にアンテナを高くし、さまざまな情報収集をする必要があるとばかりに、とにかく現場にいきつて実際に体験する。例えば、銘店と聞けば食べに行き、サービスが良いと聞けば噂のホテルにわざわざ泊まりに行く。また、美術館にも時間が許す限り立ち寄り

等々、何事にも興味津々な態度。「小さい頃から家業を継ぐとは思ってなかった。研究が好きで理科系に進んだが、卒業後企業に入って基礎研究をしようかと思っただけもある」というように、もともと探究心が旺盛なのかもしれない。

いずれにしても、「自分の体で実際に味わっておきたい。それが自分の中でアイデアの種になり財産になる。経営はバランス感覚が大切で、日々いろいろな事が起るが、ノーアイデアで臨むのと、アイデアの種を持って臨むものでは大きな違いがある」と、経営センスを磨くことに余念がない。

Profile 野田 和郎 (のだ かずろう)

昭和37年10月13日生まれ48歳。宇都宮市で生まれ育つ。栃木県立宇都宮高等学校、明治大学工学部電気工学科卒。大学卒業後、愛知県の株デンソーで2年間修業し、父親の会社ハヤブサ電装株に入社。現場で5年間自動車電装商品の取り付け・修理などの仕事をこなした後、営業を経験し専務を経て、平成12年に37歳で代表取締役に就任。社名も現状に変更。現在、携帯電話・モバイル商品など移動体通信機器や自動車電装品を取り扱う、全20店舗約200名の従業員を統括。一男一女の父親としても自分らしい接し方を貫いている。

人間として対等

父親としても、企業のトップとしても、子ども達や従業員とは「人間として対等」と考えている野田氏は、できる限り本人の個性や意思を尊重する。ただし、それぞれの役割があつて、その役割を理解しこなすことも求める。

つまり、父と子は人間として対等であつても、親として子にアドバイスすることもある。また、従業員に対しても、会社全体として目指す方向に進むために命令を下すこともある。「お客様は大切にしますが、人間としては対等です。お客様は大切にします。お客様は素人。ですから私達はプロとして、お客様に正しい知識やサービスの提供する会社存在意義。つまり、プロ意識に徹することなのだ。

そのために、「小さいことの積み重ねが大きな基になる」というのが持論。目の前の細かい事が実は大切で、その積み重ねが大きな成果を上げるというのだ。そして「本気で心の底から思うこと」が、自分の憧れ(目標)との距離をつめることだと信じて行動している。

「たくさんの人に愛される会社となるために、看板である自分は、社長として、自分がその場にいることで楽しくなり、(会社が)前進できるようにしたい」と言っていたが、はたから見るとすでにそのようだが、本人的には「まだまだ…」なのだろう。

